

業開始日は4月8日(全学
(通)

カナダ短期留学生に聞く

質問・内容

- ①カナダ短期留学に応募した動機は
- ②出発する前に、英会話の勉強をしましたか
- ③カナダ到着直後から一週間ぐらいまでの感想は
- ④研修のカリキュラムは、適当でしたか
- ⑤語学研修で、よかった点、物足りなかった点は
- ⑥あなたが希望したホームステイは、いかがでしたか
- ⑦短期留学へ行く前と現在では、英語に対する取り組みが変りましたか
- ⑧カナダについての感想は
- ⑨オプショナル・ツアーについての感想は
- ⑩4週間の短期留学をとおして、最も印象に残ったことは
- ⑪今回の短期留学についてのアドバイス、注文は

本学では初めての海外短期留学が、カナダのバンクーバー市にあるプリティッシュ・コロンビア大学のランゲージ・インスティテュートで、昨年八月六日から二十四日までの三週間にわたり実施された。参加した学生は十五人で、伊藤隆、助教教授英語が一行の引率・指導にあたった。

授業は、月曜日から金曜日まで午前三時で、午後は学生の自主的な行動にゆだねる、という形式。クラスは本学の学生だけで、八人クラスの少人数クラス。授業内容は平易な日常英会話で、講師一人にアシスタ

明石幸夫 (機械2年)

①一度外国へ行ってみたいと思っていた。どうせ行くなら一カ所で過ごせたらいいなあ、とも思っていた。

②伊藤先生のレッスンを受けた。

③毎日わくわくしていた。

④学習内容は中学校でやっている程度だったから、抵抗なく入っていた。

⑤特別な。

⑥二年前に日本人女子学生の面倒をみた経験があり、要領よく接してくれた。家族の人と庭いじりをしたり、家の中で遊んだり、近々を散歩したり、マーケットへショッピングに行ったりで、とても親切に付き合っていた。

⑦とにかく辞書を引くようになった。ラジオの英語番組を聴いている。

⑧温気がなく、日差しが強い。夜はだいぶ寒く、日没は九時

ント一人が指導にあたった。現地での宿舎は、全員ホームステイで、バンクーバー市の一般家庭に分散して滞在した。研修期間中は、あいにくと交通ストライキがあつて、通学手段はもっぱらヒッチハイクに頼った学生が多かった。このような苦労があつた反面、ヒッチハイクをしたおかげで、英語を話す機会を多くもてたことで、学生にとっては、交通ストライキはむしろプラスになった。

八月二十四日には、ランゲージ・インスティテュートで修了式が行われ、修了証書が一人一人に手渡された。当日の修了式に

て、料理の味づけは大味。

⑨あえてアメリカへ行く必要もなく、カナダ国内だけでもいいように思えた。

⑩また行きたいくらいカナダはよかった。

⑪お金さえあれば、もっと長い方がよい。

赤塚文夫 (電気2年)

①英会話がうまくならなかった。一年の英語の授業で、先生からカナダ短期留学が実現するかもしれない、と聞いていたので、募集要項ができたときに参加することを決めた。

②伊藤先生のレッスンを受けた。

③最初の二週間は、ふだんの生活の一月分に相当するくらい長く感じた。外国へ来たということ、刺激が多く、見るものすべてが珍しく感じた。交通ストライキのおかげで、いろいろな体験ができた。とくに、ヒッチハイクをして、度胸がついた。

④教え方が辛抱強く、いいね。分からないところは何度でも教えてくれた。

⑤研修期間がもう二週間ほしかつた。クラスに外人が混じってれば、友だちも多くなつたと思う。

⑥夫婦に娘二人の家族構成。ほかにリビアの留学生が一人。かれは同じ語学研修所の上級クラスに入っていて、来年UBCへ編入学する予定とか。家族のみんなと広場でサッカーなどして楽しんだ。

⑦英語にますます興味がわいて

は、大川陽康、教務部長も出席し、あいさつがあつた。

カナダでは、カナディアンロッキーとレクタリア島へ研修ツアーを実施。二十六日からアメリカへ移動。サンフランシスコとロスアンゼルスに四日間滞在し、学生は、ディズニールランドなどのオプショナル・ツアーに自由参加で楽しんだ。

全行程十九日間の短期留学の成果は、かなりのものがあつた。参加者に短期留学のことについて聞いてみたので、ここに紹介する。

〔参加学生の順はアイウエオ順〕

カッコ内の学年は59年度

きて、FENを聴くようになって

た。

⑧気候もよく、申しぶんなかった。

⑨とくにディズニールランドがよかった。

⑩バンフへ一人でいったこと。バンクーバーを夕方五時に、翌朝八時にジャスパーに着き、ここでバスを乗り換えて、その日の夕方七時にバンフに着いた。オプショナル・ツアーで行った日本工大のグループが泊まっているホテルを探している途中で友人たちと出会った。ホテルで友人と付き合った後、夜行バスでバンクーバーへ戻った。コロ

ンビア河の上の立ったときは感動した。ちなみに、この旅行の経費は二百ドル。

⑪とくになし。

阿部 保 (機械2年)

①「せっかくのチャンスだからカナダへ行ってきたら」と親から言われたので。

②とくになし。

③緊張していた。辞書があるの

でなんとか会話ができるだろうという気持ちでいた。ホストマザーが親切で、最初から最後まで面倒をみてくれた。通学はほとんどヒッチハイク。

④楽しかった。日本の授業と比べて、日常生活上の会話が中心のカリキュラム。たとえば、買物、レストランでの注文、ホテルの予約など。

⑤午後日本工大のグループとプールで泳いだりして過ごした

が、もっと時間を有効に利用し

たかった。たとえば、午後も授業するとか。現によその外人クラスでは午後もしていた。

⑥おばさん、むすこ(16)と娘(13)。ベネズエラの留学生

帰宅すると、大学の様子や日本

のことなど話さずねられた。

⑦英語に対する抵抗が薄らぎ、楽しく感じるようになった。

⑧広くてゆつたりしている。公園がおおく、海が近く環境がよい。そのうえ気候もよい。カナ

ダ人は、日本人に比べて、時間の概念がうすいように思えた。

⑨多く回るとするとか、一日単位のツアーなので中味がうすい。時間をかけてじっくり回

りたかった。

⑩とくになし。

石井昭博 (建築3年)

①家計から考えると、少し費用が高かった。

②就職するとなかなかこのよう

な機会には恵まれないだろう、

と思つたので。

③二、三日は自分から話しか

けることができなかった。話そう

としても、はたして自分の言葉

が正しいかどうか、迷いが先行

した。ただ、夕食のとき、お

互いに自己紹介をしたので、多

少気持ちのつながりがもてた。

④適当だった。

⑤三週間の研修期間は短かい。

クラスが日本人だけなので、日

本語を使いすぎた。外人といっ

しょのクラスだったらよかった。

⑥ドイツの夫婦と20歳のこ

もが一人。それに語学研修所に

留学しているメキシコ人姉妹。

かの女たちはけっこう英語がし

やべれて私が話す内容をホスト

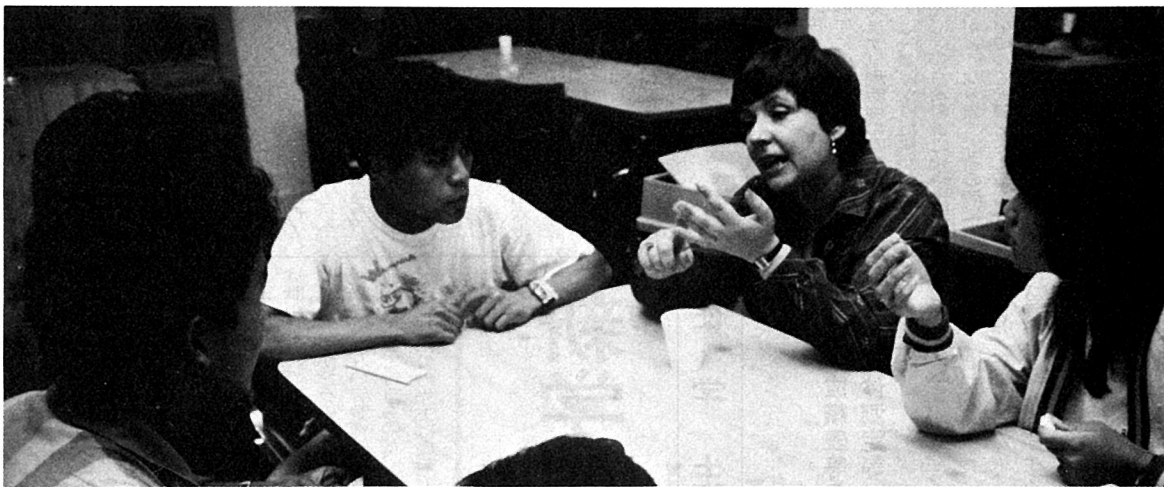
ファミリー以上に理解してくれ

た。家族の人にスタンレーパー

クや食事の準備まで行ってもら

った。加藤君のホストファミリー

とシアトルへ行き、ヤンキース



研修中の講師と学生

①かねてから海外へ行きたいと

思っていた。短期留学は、英語

を習いながら外国で生活ができ

るところに魅力があった。親と

相談したら、承諾してくれて、

費用も出してくれた。

②英語は前から好きだったので、

会話の本を買って、独学した。

③会話の勉強がうまいはず、精

神的にめいり、落ち込んでいた

ところにあったので、UBCの

対マリナズのナイター試合を

観戦した。

④外人に話しかける自信がつい

た。

⑤バンクーバーは、入江をはさ

んでその両側に町並みがあり、

調和がとれていてすばらしい

た。

⑥今度行くとしたら、自分一人

でプランを立てて、安くあげた

い。小さな名所も行ってみた

た。

⑦日本では体験できない、いろ

いろなことを見聞し参考にな

った。今回の留学でやりとげれ

なかったことを実現させるため

にも、また行きたい。

⑧五週間の期間がほしかった。

⑨費用もそんなに高くつかない

と思う。

加藤隆一 (建築3年)

①かねてから海外へ行きたいと

思っていた。短期留学は、英語

を習いながら外国で生活ができ

るところに魅力があった。親と

相談したら、承諾してくれて、

費用も出してくれた。

②英語は前から好きだったので、

会話の本を買って、独学した。

③会話の勉強がうまいはず、精

神的にめいり、落ち込んでいた

ところにあったので、UBCの

対マリナズのナイター試合を

観戦した。

④外人に話しかける自信がつい

た。

⑤バンクーバーは、入江をはさ

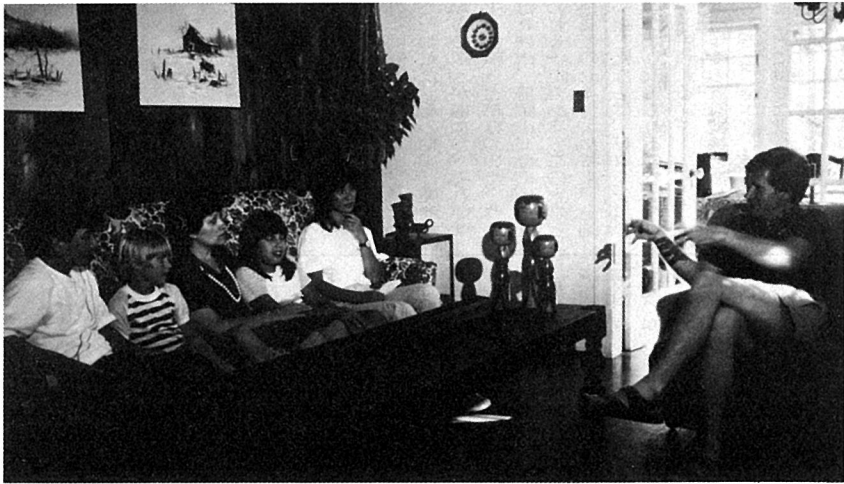
んでその両側に町並みがあり、

調和がとれていてすばらしい

た。

⑥今度行くとしたら、自分一人

でプランを立てて、安くあげた



ホームステイでのホストファミリーとの会話

①最初の二週間は、ふだんの生活の一月分に相当するくらい長く感じた。外国へ来たということ、刺激が多く、見るものすべてが珍しく感じた。交通ストライキのおかげで、いろいろな体験ができた。とくに、ヒッチハイクをして、度胸がついた。

④教え方が辛抱強く、いいね。分からないところは何度でも教えてくれた。

⑤研修期間がもう二週間ほしかつた。クラスに外人が混じってれば、友だちも多くなつたと思う。

⑥夫婦に娘二人の家族構成。ほかにリビアの留学生が一人。かれは同じ語学研修所の上級クラスに入っていて、来年UBCへ編入学する予定とか。家族のみんなと広場でサッカーなどして楽しんだ。

⑦英語にますます興味がわいて

は、大川陽康、教務部長も出席し、あいさつがあつた。

カナダでは、カナディアンロッキーとレクタリア島へ研修ツアーを実施。二十六日からアメリカへ移動。サンフランシスコとロスアンゼルスに四日間滞在し、学生は、ディズニールランドなどのオプショナル・ツアーに自由参加で楽しんだ。

全行程十九日間の短期留学の成果は、かなりのものがあつた。参加者に短期留学のことについて聞いてみたので、ここに紹介する。

〔参加学生の順はアイウエオ順〕

カッコ内の学年は59年度

きて、FENを聴くようになって

た。

⑧気候もよく、申しぶんなかった。

⑨とくにディズニールランドがよかった。

⑩バンフへ一人でいったこと。バンクーバーを夕方五時に、翌朝八時にジャスパーに着き、ここでバスを乗り換えて、その日の夕方七時にバンフに着いた。オプショナル・ツアーで行った日本工大のグループが泊まっているホテルを探している途中で友人たちと出会った。ホテルで友人と付き合った後、夜行バスでバンクーバーへ戻った。コロ

ンビア河の上の立ったときは感動した。ちなみに、この旅行の経費は二百ドル。

⑪とくになし。

阿部 保 (機械2年)

①「せっかくのチャンスだからカナダへ行ってきたら」と親から言われたので。

②とくになし。

③緊張していた。辞書があるの

でなんとか会話ができるだろうという気持ちでいた。ホストマザーが親切で、最初から最後まで面倒をみてくれた。通学はほとんどヒッチハイク。

④楽しかった。日本の授業と比べて、日常生活上の会話が中心のカリキュラム。たとえば、買物、レストランでの注文、ホテルの予約など。

⑤午後日本工大のグループとプールで泳いだりして過ごした

が、もっと時間を有効に利用し

たかった。たとえば、午後も授業するとか。現によその外人クラスでは午後もしていた。

⑥おばさん、むすこ(16)と娘(13)。ベネズエラの留学生

帰宅すると、大学の様子や日本

のことなど話さずねられた。

⑦英語に対する抵抗が薄らぎ、楽しく感じるようになった。

⑧広くてゆつたりしている。公園がおおく、海が近く環境がよい。そのうえ気候もよい。カナ

ダ人は、日本人に比べて、時間の概念がうすいように思えた。

⑨多く回るとするとか、一日単位のツアーなので中味がうすい。時間をかけてじっくり回

りたかった。

⑩とくになし。

石井昭博 (建築3年)

①家計から考えると、少し費用が高かった。

②就職するとなかなかこのよう

①かねてから海外へ行きたいと思っていた。短期留学は、英語を習いながら外国で生活ができるところに魅力があった。親と相談したら、承諾してくれて、費用も出してくれた。

②英語は前から好きだったので、会話の本を買って、独学した。

③会話の勉強がうまいはず、精神的にめいり、落ち込んでいたところにあったので、UBCの対マリナズのナイター試合を観戦した。

④外人に話しかける自信がついた。

⑤バンクーバーは、入江をはさんでその両側に町並みがあり、調和がとれていてすばらしいた。

⑥今度行くとしたら、自分一人でプランを立てて、安くあげたい。小さな名所も行ってみたた。

⑦日本では体験できない、いろいろなことを見聞し参考になった。今回の留学でやりとげれなかったことを実現させるためにも、また行きたい。

⑧五週間の期間がほしかった。

⑨費用もそんなに高くつかないと思う。

加藤隆一 (建築3年)

①かねてから海外へ行きたいと思っていた。短期留学は、英語を習いながら外国で生活ができるところに魅力があった。親と相談したら、承諾してくれて、費用も出してくれた。

②英語は前から好きだったので、会話の本を買って、独学した。

③会話の勉強がうまいはず、精神的にめいり、落ち込んでいたところにあったので、UBCの対マリナズのナイター試合を観戦した。

④外人に話しかける自信がついた。

⑤バンクーバーは、入江をはさんでその両側に町並みがあり、調和がとれていてすばらしいた。

⑥今度行くとしたら、自分一人でプランを立てて、安くあげたい。小さな名所も行ってみたた。

⑦日本では体験できない、いろいろなことを見聞し参考になった。今回の留学でやりとげれなかったことを実現させるためにも、また行きたい。

⑧五週間の期間がほしかった。

⑨費用もそんなに高くつかないと思う。

加藤隆一 (建築3年)

①かねてから海外へ行きたいと思っていた。短期留学は、英語を習いながら外国で生活ができるところに魅力があった。親と相談したら、承諾してくれて、費用も出してくれた。

②英語は前から好きだったので、会話の本を買って、独学した。

③会話の勉強がうまいはず、精神的にめいり、落ち込んでいたところにあったので、UBCの対マリナズのナイター試合を観戦した。

④外人に話しかける自信がついた。

⑤バンクーバーは、入江をはさんでその両側に町並みがあり、調和がとれていてすばらしいた。

⑥今度行くとしたら、自分一人でプランを立てて、安くあげたい。小さな名所も行ってみたた。

⑦日本では体験できない、いろいろなことを見聞し参考になった。今回の留学でやりとげれなかったことを実現させるためにも、また行きたい。

⑧五週間の期間がほしかった。

⑨費用もそんなに高くつかないと思う。

加藤隆一 (建築3年)

①かねてから海外へ行きたいと思っていた。短期留学は、英語を習いながら外国で生活ができるところに魅力があった。親と相談したら、承諾してくれて、費用も出してくれた。

②英語は前から好きだったので、会話の本を買って、独学した。

③会話の勉強がうまいはず、精神的にめいり、落ち込んでいたところにあったので、UBCの対マリナズのナイター試合を観戦した。

④外人に話しかける自信がついた。

⑤バンクーバーは、入江をはさんでその両側に町並みがあり、調和がとれていてすばらしいた。

⑥今度行くとしたら、自分一人でプランを立てて、安くあげたい。小さな名所も行ってみたた。

⑦日本では体験できない、いろいろなことを見聞し参考になった。今回の留学でやりとげれなかったことを実現させるためにも、また行きたい。

⑧五週間の期間がほしかった。

⑨費用もそんなに高くつかないと思う。

加藤隆一 (建築3年)

①かねてから海外へ行きたいと思っていた。短期留学は、英語を習いながら外国で生活ができるところに魅力があった。親と相談したら、承諾してくれて、費用も出してくれた。

②英語は前から好きだったので、会話の本を買って、独学した。

③会話の勉強がうまいはず、精神的にめいり、落ち込んでいたところにあったので、UBCの対マリナズのナイター試合を観戦した。

④外人に話しかける自信がついた。

⑤バンクーバーは、入江をはさんでその両側に町並みがあり、調和がとれていてすばらしいた。

⑥今度行くとしたら、自分一人でプランを立てて、安くあげたい。小さな名所も行ってみたた。

⑦日本では体験できない、いろいろなことを見聞し参考になった。今回の留学でやりとげれなかったことを実現させるためにも、また行きたい。

⑧五週間の期間がほしかった。

⑨費用もそんなに高くつかないと思う。

加藤隆一 (建築3年)

①かねてから海外へ行きたいと思っていた。短期留学は、英語を習いながら外国で生活ができるところに魅力があった。親と相談したら、承諾してくれて、費用も出してくれた。

②英語は前から好きだったので、会話の本を買って、独学した。

③会話の勉強がうまいはず、精神的にめいり、落ち込んでいたところにあったので、UBCの対マリナズのナイター試合を観戦した。

④外人に話しかける自信がついた。

⑤バンクーバーは、入江をはさんでその両側に町並みがあり、調和がとれていてすばらしいた。

⑥今度行くとしたら、自分一人でプランを立てて、安くあげたい。小さな名所も行ってみたた。

⑦日本では体験できない、いろいろなことを見聞し参考になった。今回の留学でやりとげれなかったことを実現させるためにも、また行きたい。

⑧五週間の期間がほしかった。

⑨費用もそんなに高くつかないと思う。

加藤隆一 (建築3年)

①かねてから海外へ行きたいと思っていた。短期留学は、英語を習いながら外国で生活ができるところに魅力があった。親と相談したら、承諾してくれて、費用も出してくれた。

②英語は前から好きだったので、会話の本を買って、独学した。

③会話の勉強がうまいはず、精神的にめいり、落ち込んでいたところにあったので、UBCの対マリナズのナイター試合を観戦した。

④外人に話しかける自信がついた。

⑤バンクーバーは、入江をはさんでその両側に町並みがあり、調和がとれていてすば

二十一世紀に羽搏け

建築学科 木村 蔵 司



会社に入るもの、自分の家で仕事をする者など夫々の行く途が待っている。あせらず迷わず勇往邁進する事だ。

卒業おめでとう。諸君は長い間の学窓生活を終えて今茲に卒業する。何と長かった事かと思えもしようが、過ぎてしまったら短かった気もするであろう。山登りと云うものはこういうものだ。登る間の苦労は大変なものだが登りつめて見るとほっとした気持ちと共に何か気が抜けてこれからのようかと思案する事もある。幸いにも諸君には次の希望の途が待っている。



電気工学科 岩 瀬 勝

大空に翔けよ

卒業おめでとう。四分の一が過ぎたばかりだ。人生の本番はこれからだ。今や八十年といわれる長い人生には折目節目といふものがある。卒業・就職というの君にとって一つの折目節目になるはずだ。自分の生き方について一度はじっくりと考えてみることを推める。楽しく且つ充実した人生を生きたいものである。

オオタカ(昔、鷹狩りに使われた利口な鷹)の巣立ちを想う。卵からかえった雛人形のような雛の口に親鳥は自分で半ば消化させた餌を押し込む。少し大きくなると雛は親の狩ってきた餌を奪い合うようにして盛んな食欲を示す。まもなく親鳥と同じくらいの大きさに丸々と成長

すると、親鳥は餌を与えなくなり、自分の翼をはたき素振りをする。幼鳥は見よう見まねで幼い翼をバタバタさせる。餌をもらえないので太っていた身は段々にしなやかになる。軽くなるので飛び立つ条件はととのってくるのだ。数日間餌を一つも食べないでハングリーになっていく。愈々或る日、思い切って巣から飛び立つ。明日からは自分で狩らなければならない。幼鳥にとっては大変きびしい。その期間をのりこえてオオタカは一人前(「鳥前」)になり大空を翔けるのだ。

諸君は今、日工大を巣立つわけだが、四月からはだまっていなくてもサラー(月給)がもらえる。オオタカよりは楽な感じがする。

就職して研修期間が終り、いずれは職場に配属される。仕事になれるまでの期間は相当の緊張感をもった毎日であろう。大事なことは、仕事にやっとな馴れたなど自分が感じたときからの毎日をどのように過ごすかである。

ある。諸君は割合に口下手である。交際とは飲み食いする事ではない。上司に対し自分の考えを述べ自分を認めて貰う事は立身出世の第一歩だ。黙々と仕事はするが、何も云わない人がいる。これでは損である許りでなく人の上には立てない。人という者は前人の言動から学ぶことが多いのだ。そしてそれを咀嚼し自分の肉とする。そうして育って行くものだ。

次のABCのケースに分かれる。Aは月給満額になる。即ち、それまでの緊張感をなくし毎日を情性で過ごす。Bは月給取りになる。即ちいわれたことだけはちゃんとやって毎日過ごす。少なくともBの月給取りには合格したいものだ。Cは大空を翔けるオオタカというとりだ。これは仕事に慣れて気持ちにゆとりができた、自分の毎日している仕事をしっかりと能率よくやる工夫はないかな?とか、隣の職場はどんなことをしているかな?といった色々なことが身のまわりにあるはずだ。上司にいわれたノルマ以外のことに関心をもつこと。自分から自分に問題を課することである。

このような関心を持ち続けることが、君の人生を充実させるための、人生の折目節目になると確信するよ。

大空に翔けたオオタカは自分で定めた目標の餌に一直線に突っ込む。そしてまた大空高く舞い上がる。

人生を楽しみなまえ。

健康・誠実・勇氣

機械工学科 渡 辺 寛



わりに集まって来ます。それらが新しい刺激となって、脳の蓄積が増えるのです。

殊に皆さんが進む方向は、それぞれに細分化されており、長い蓄積があつても、今やその入口にたどりつけたかどうかという程度です。その中は深く、広く、また日一日とその幅が広がって行きます。今から本当の勉強です。脳への情報の出し入れを頻りに繰り返して、社会へ投出して下さい。

卒業おめでとう。小学校、中学、高校、大学と随分長い間勉強しましたね。人によって少しの差はあるかも知れませんが、すばらしく大きな蓄えです。今や使う時が来たのです。

しかし出し惜しみはいけません。在庫一掃のつもりで、ドカンと使ってしまったら下さい。使ってしまったら無くなる、などの心配は全く無用です。人間は物と全く逆で、筋肉や脳は使う機能が良くなるそうです。蓄えたものを外に出すと、それに対する意見や、情報が君のま

新時代のホープを期待

システム工学科 轡 田 昇



卒業おめでとう。とうとう諸君は最後の学園を無事にくぐりぬけて、社会に飛び立つ日が来しましたね。これからは学園と異なり、また自由にいろいろなことのできる社会でもあります。同時にいろいろな危ない場面もあるところだ。教員、自営、進

は駄目なんだ、と言っているのではありません。物事の現象を支配する要因は無数にあつて、その原因の影響を説明できる理論はまだ極めて少ないという事でしょう。という事は皆さんの脳の在連に、社会で習った新しい事柄をつかえても解らなければ、やっつける以外にはないのです。

そこには失敗という危険が必ずひそんでいます。泥をかぶるリスクも一杯です。それでも敢然と挑戦するのです。もううまく行かなければ、その点を一生懸命考えて、手直しすればよいのです。苦しんで悩んでいた時に新しい発明、発見が生れるのです。失敗は苦しいけれど、恥ずべき事ではありません。むしろ失敗を沢山乗り越えた人程、すばらしい社会人と言えるかも知れません。

以上悟りきったような事を書きました。我が身への愚痴のようなものです。それでも自信をもって言える事は「健康」です。健康はすべてに優先します。体には異々も気を付けて、それぞれの道をたくましく、堂々と邁進して下さい。

給料をいただく立場になったので、これからは保護は一切なくなり、一人で前進して下さい。まず第一に健康に注意して、仕事を休まないこと。第二に時間を守ること。第三に人間関係を大切に他人に迷惑をかけること。以上が社会の第一歩の基本事項です。

このように考えると、いずれ職場でも、一長一短があることが分かります。しかし、人間は集団生活をしないと、生きていけないのです。集団生活から落ちこぼれないためには前記基本事項を忠実に実行することが大切です。

次に良く人間は連というものを生きたものといひます。私は連もその人間の努力の結果、強運になるのではないかと考えます。住友不動産社長の安藤太郎氏は、強運の人であるが次の如く言っております。「情報を生かすのが、私は連だと思っています。ごきげんよう。」

祝卒業

卒業計画(研究)一覧

機械工学科

渡辺寛・窪田英毅研究室(設計、空調、穴加工)

大川陽康・村川正夫研究室(塑性加工)

町山忠弘・寺島幸雄研究室(制御工学)

池田義雄・小倉勝研究室(熱工学)

松木正勝・横谷真一郎研究室(流体工学)

漆原富士夫・佐藤茂夫研究室(金属材料)

玉木保・梅崎栄作研究室(応用力学、生体力学)

鈴木昭研究室(自動化)

電気工学科

岩瀬勝研究室(電気鉄道、電力応用)

柳沢章研究室(機械要素)

酒井茂紀研究室(機械加工Ⅱ)

桑田正信研究室(植物電気)

高橋琢二・堀口光敏研究室(電力応用)

八田達・日下部岱研究室(電子技術)

大久保勝弘研究室(電気機器)

中道一郎研究室(電気材料、半導体)

廣瀬治男・谷澤茂研究室(半導体、光、電子回路、超音波)

石井治・丹羽次郎研究室(コンピュータ・情報処理)

御所康七・佐伯正盛研究室(高電圧、放電現象)

高橋篤夫研究室(材料部、計測・制御)

堀田勝喜研究室 (電気材料)		木村蔵司研究室 (材料、構造)		三苫正光研究室 (建築意匠・設計・計画)		宮坂修吉研究室 (建築計画・意匠)		片山滋友研究室 (電気機器、福祉機器)	
建築学科		山口義昭研究室 (光、電磁界理論)		高橋恒研究室 (地域計画)		吉岡丹研究室 (建築材料)			
北後寿研究室 (耐震構造工学、構造計画)		離波恒夫研究室 (建築構造)		榎井武一研究室 (環境工学、都市設備)					
桑原文夫研究室 (地盤工学)		大萱昭芳研究室 (建築史、建築設計)		伊藤庸一研究室 (建築計画、建築設計)					
波多野純研究室 (都市史、建築設計)		小竿眞一郎研究室 (環境工学)							
岩隈利輝研究室 (建築計画、農村計画)		高橋雅充研究室 (建築構造)							
西山光昭研究室 (材料、構造)		システム工学科		横内龍雄研究室 (生産管理)		杉本安次郎研究室 (表面工学)		吉村浩研究室 (品質管理、鑄造)	
宮井正弥研究室 (データ解析)				長谷川洸研究室 (制御工学)		飯倉道雄研究室 (情報技術)			
土井誠研究室 (情報数理工学)				正道寺勉研究室 (数理計画)		鈴木敏正研究室 (電子材料工学)		竹内淳彦研究室	

清島達郎研究室

木村哲三研究室

59年度

卒業生名簿

3月20日
付確定者

機
械
工
学
科

電
気
工
学
科

以上一九九△

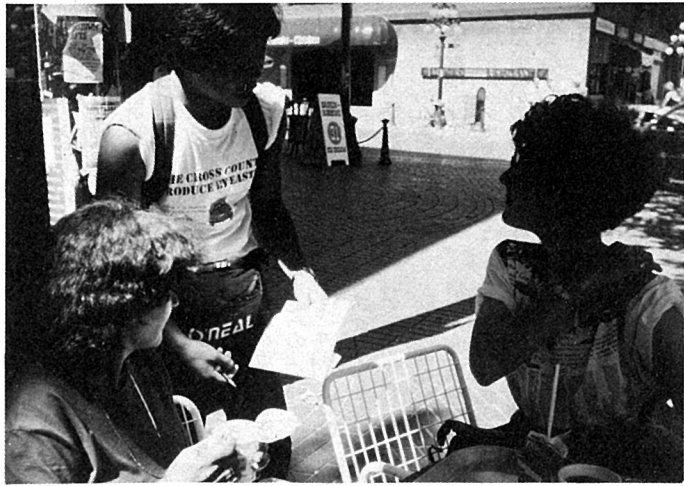
建
築
学
科

以上一九九△

シ
ス
テ
ム
工
学
科

以上二七四△

以上二〇五△



積極果敢に会話に挑む学生

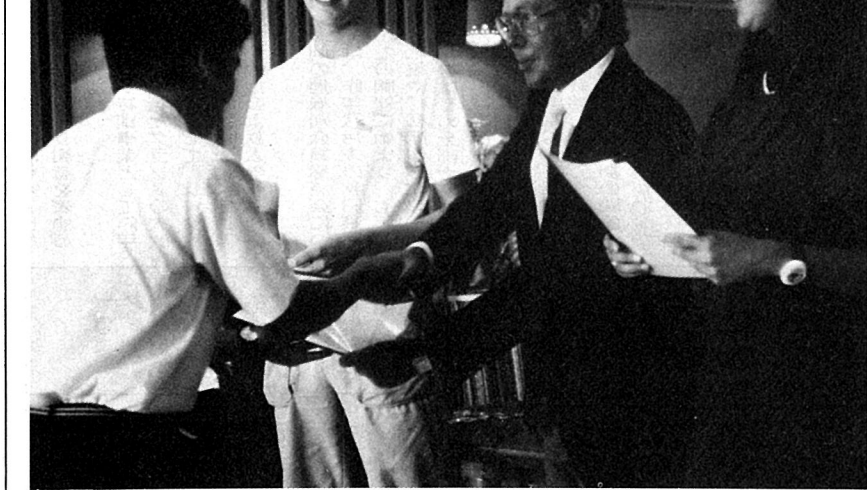
杉本賢次 機械2年

①アメリカもカナダも一度は行ってみたい、と思っていた。学生時代でないとチャンスがないし、親も動いてくれた。
②伊藤先生のレッスンを受けた。元来、英語は好きでなかったがカナダへ行くことが決まると、会話の勉強を始めた面白くなってきた。
③時差ボケ。日本語が通じないカナダへ来たんだなあ、という実感。ヒアリングへの集中力がなく、相手の話している内容が全然入らなかつた。自分から話しかけるときは、会話の本を見ながら意図を伝えた。イエスカノーの返答しかできなかった。ホームステイでは、家庭内で守ってほしいことを、最初のうちにメモで渡しておいてくれた。
④実際の買物や食事のときなど、研修成果を発揮できたように思う。教える方がじょうずで、帰国して感じたことが、研修で使われる言葉はもう英語で話していたのだが、日本語で研修していたような錯覚にとらわれている。英語を日本語に置き換えて理解するのはなく、英語そのもので理解することができた。
⑤研修期間が一週間でも二週間でも長ければよかった。実際、興味をもつようになるのは、二週間過ぎたあたりからで、長ければもっと会話の機会や回数が増えたと思う。いろいろな国から留学生が来ていたので、彼らとの混合クラスでやりたかった。
⑥夫婦ともども四人、最初のころは、こどもと夜十時ごろまで外を駆け回り遊び回り、ゲームやかくれんぼをした。こどもの会話はわかりやすかった。ホストファミリーと市内観光や公園に行き、散歩やジョギングなどをした。ホストファミリーがバンクーバー市のジョギングチームに入っており、アメリカで行われる駅伝レースに参加するというので、おそろいのTシャツを着て同行した。また、毎週金曜日にはコンサートを聴きに、こじんまりとした音楽堂へ連れていかれてもらった。
⑦英語がますます好きになった。⑧とにかくデッカカ。カナディアン・ロッキーへもう一度行ってスキーを楽しみたい。バンクーバー市内はほとんど見て回った。ほかのカナダも見たい。人なつこく親切。
⑨パンフとディズニールンドがよかった。アメリカのオプショナル・ツアーは必要がない。
⑩大きなカナダを見るのができた。研修の成果はあった。
⑪とくになし。

鈴木智也 (システム1年)

①父に勧められて。
②伊藤先生のレッスンを受けた。
③言葉が通じないため不安だった。初日研修に遅刻したので、次の日からは、10分くらい歩いたところから友人のホストファミリーがあり、その人の車で通学。
④分からない場合、ものごとをえがいてもうまく、理解しやすかった。受講者は適当だが、外人が半数はいた。理解しやすかった。午後の自由研修の分を細かくカリキュラムに組み入れてほしい。
⑤ホストファミリー一人だけ。ほかにも中国の留学生八人。こどものいる家庭が望ましかった。
⑥英語に対する抵抗感が薄らぎ楽しく感じようになった。
⑦日本人と比較して親切。自然が美しい。UBCで迷子になり、その広さを痛感。
⑧時間的制約があり、きつい。一コースぐらいはカットして個人的な旅行をしたかった。
⑨修了式のとき、19才の誕生日で皆から祝福を受けたのが、思い出深い。
⑩お金があればまた行きたい。外国人と積極的に接触して友だちをつつたほうがよい、と思った。語学研修は、四週間が適当。
⑪高橋先生(電気2年)

①学生時代の目標は海外に出ることだった。ただ、一人旅は心もとなく感じていたところ、このプランがあったので、応募した。アルバイトをしてお金を蓄えていたので、費用は全部自分持ち。
②大学へ入学してから海外へ行くかと思っていたので、独学ながらある程度勉強していた。アマチュア無線部に入っていて、実際に英語で交信したりしたので少し自信があった。
③到着直後は時差ボケのせいでながんだか分からなかったが、翌日からマイペース。最初から自分で話しかけていったので、相手も、これはできる、と思ってくれた。ふだんどおりにしゃべってきた。しかし、三割程度しか理解できなかった。カナダでは選挙運動がさかん



美人講師らの祝福を受けて 修了証書が学生に

うと思っていたが、ロスからの交通手段がなく、不便だった。で、オプショナル・ツアーに参加した。アメリカ行きの目的はウエストコーストへ行くことだった。個人行動をとった。サンタモニカビーチをめざしたが、道が不案内のため迷った。で、スビーキングは個人差があるとのこと。語学研修所には、南米やアフリカの人が多かった。で、できれば混合クラスにした方がよかった。能力に差があるだろう。
⑥おばさんとも二人。それにドイツからの留学生、ウリ君。ウリ君とは部屋がとなりだった。ウリ君とオウカやビールを飲みながら一緒に会話をした。彼は協力的で、私の英語を聞きながら間違いをたいてくれた。
⑦英会話の自己評価を、不足部分を補う勉強をして来年の渡航に役立てたい。
⑧安全なところ。
⑨パンフはよかったが、時間が少ない。オプショナル・ツアーは、時間が制約されることになった。カナダ人と付き合うチャンスがそれだけ少なくなる。ディズニールンドは一人で

くない、と言われていた。二人でヒッチハイクしたが、うまくいかなかった。ホームステイまで一時間半かけて歩いて帰ったこともあった。最初は神経を使いすぎて疲れた。④理解しやすかった。最初は神経を使いすぎて疲れた。⑤夏休みでUBCの学生がいなくて、キャンパスで会うのは日本人ばかりで、つまらなかった。夫婦共稼ぎの家庭。家庭に入らなくて、三日して主人の父がなくなったので、二人ともそちらの方へ行きついで、あまり会話する機会がなかった。むしろ友人のホストファミリーにお世話になった。食事は自炊もした。⑦簡単な会話は理解できるようになった。もっとできるように努力したい。
⑧自然環境がすばらしく、みんなが大切にしているから、ゴミなど落ちていない。また、動物好きでこの家庭でも動物を飼っている。お金の使い方が、旅行や休日の娯楽、スポーツなどにあてていて、健全だと思った。
⑨ディズニールンドがよかった。
⑩高橋君のホームステイの近所

の人で、アイリーンというおばさんがいた。私たちは彼女のことを「パワフルおばさん」と呼んでいた。彼女は私たちが車でビクトリア島へ連れて行ってくれた。ビーコンヒルパークや水族館、そして原住民の資料館などを見て回った。費用はすべて、キャンパスで会った日本人から借りた。⑤夏休みでUBCの学生がいなくて、キャンパスで会うのは日本人ばかりで、つまらなかった。夫婦共稼ぎの家庭。家庭に入らなくて、三日して主人の父がなくなったので、二人ともそちらの方へ行きついで、あまり会話する機会がなかった。むしろ友人のホストファミリーにお世話になった。食事は自炊もした。⑦簡単な会話は理解できるようになった。もっとできるように努力したい。
⑧自然環境がすばらしく、みんなが大切にしているから、ゴミなど落ちていない。また、動物好きでこの家庭でも動物を飼っている。お金の使い方が、旅行や休日の娯楽、スポーツなどにあてていて、健全だと思った。
⑨ディズニールンドがよかった。
⑩高橋君のホームステイの近所

コトスイスの留学生が一人ずつ。⑦辞書をひいて意味を調べるようになった。⑧広い。自然美。親切。⑨自由行動の方がよかった。ディズニールンドはよかった。ウエストコーストへ行きかけた。レンタカーを借りてバンクーバー近辺をドライブした。⑩ホームステイとヒッチハイクで他国の人と会話することができた。⑪休学してでも一年間いたかった。⑫卒業したらこのような機会にも恵まれたいと思った。たまたま、カナダに知り合いもいなかった。親も動いてくれた。
③時差ボケで疲れていた。家族との会話では、発音がうまくできないので、苦労した。辞書をもっていて、分からない箇所は紙に絵などを書いて理解に努めた。
④適当だった。
⑤期間が短すぎた。
⑥夫婦ともども二人。外食に連れて行ってもらったり、食後ドライブで海岸へ行き、一時間ぐらい散歩した。ホストファミリーが所有するボートに乗って遊んだ。ご主人はミュージシャンで、音楽の教師もしている人だ。が、ミュージシャン仲間と浜辺近くでパーベキューをして楽しむから行かないか、と誘われたので、高元さんと同行した。大きな家の裏庭の芝生の中央で、ミュージシャンたちが演奏し、その回りでは皆が踊っている、といった光景。百人ぐらいいたであろう。前庭ではこどもたちが遊んでいた。また、スタンレーパークへ行き、自転車一周しながら途中で説明を受けた。
⑦とくになし。
⑧人間はおおらかで優しい。一般的に時間にルーズで三十分から一時間ぐらいの遅れはざら。どこへ行っても芝生があり、夕方になるとあちこちで庭に水をまく光景が見られた。建物そのものは質素なものが多かった。
⑨ディズニールンドがよかった。

⑩前に述べたようなこと。
⑪アメリカへ行くが、カナダに一月くらい滞在したかった。ホストファミリーの人に「もっとしゃべれたらもっと楽しいのに」と言ったら、「研修期間が三ヶ月あったら、日常会話はできるよ」と言われた。
⑫福本和泰(システム3年)
①高校時代から英語に興味をもっていた。英語圏へ行ってみたい。このカナダ短期留学のうわさは以前から聞いていたし、心待ちにしていた。
②伊藤先生のレッスンを受けて、受講生もそれにこたえた。
③最初の二週間、授業に慣れるまでは日本人のクラスの方がよいが、慣れたら外国人といっしょでもよいように思われた。午後の自由研修では、カナダ人に積極的に質問したので、尻込みしなくなった。
④医療機器の会社のエンジニアであるご主人と看護婦をしていらっしゃる奥さん、こども二人。職業柄、私の健康には充分気をつけてくれた。ザックパランが家庭で、部屋をあちこちに洋服が脱ぎ捨てられている、といった感じ。このフリーリングが自分とびつたりで、くつろげた。週末に車でアメリカや北バンクーバーへ連れて行ってもらう。家に五、六キロ離れたところ、馬小屋があり、そこに行くと馬の手入れをしたりした。
⑦以前より興味をもつようになった。真面目に取り組むようになった。
⑧夏、涼しく、空気がきれい。⑨アメリカは面白くなった。行きたいところへ自分たちでツアーした方がよかった。
⑩ホストファミリーにとっても親切にしてもらったこと。日本へも遊びに来たいと言っていた。
⑪研修期間は三週間が適当。オ

プショナル・ツアーはあまりどうも。
①中学時代、先生に「二十まで外国へ行ってみたい」と言われていた。それが今回の企画で実現できた。
②伊藤先生のレッスンを受けた。③見るものが全て新鮮で、期待感でわくわくしていた。ホームステイで三日間過ごしたら、生活スタイルが理解できるようになった。出発前に本を読んだりして、ある程度の知識を頭に入れておいたので、それがよかった。ストライキがあったおかげで、クラスが多かった。通学は、ホームステイの娘さんがUBC内にある銀行に勤めていた。行きは便乗させてもらった。帰りはヒッチハイク。
④進み方がよい。
⑤あと一週間ほしい。
⑥夫婦ともども二人。日本人の留学生一人。ダウンタウンへ連れて行ってもらった。杉本君のホストファミリーのバーティに招待された。
⑦ドビンを聴いたり、回りに英語で書かれているものがあれば読んでみよう、という気持ちが増えた。辞書をひく回数も増えた。
⑧よかった一言。ホームステイから一キロ圏内に公園があり、それぞれにテニスコートを数面もっている。どこでも野球やサッカーができるくらい広い。
⑨パンフとディズニールンドがよかった。どちらももっと時間がほしい。パークレールには学生が大勢いたのでアメリカの大学の雰囲気を感じることができた。
⑩ヒッチハイクができたこと。外人と生活ができたこと。生活様式が理解できた。修了式の翌日、友人四人とレンタカーを借りて、ノースバンクーバーまでドライブに出かけた。ついでにショッピングもした。
⑪最低一カ月の語学研修期間が必要。オプショナル・ツアーが毎週末にあるので、友人とかホストファミリーとの交流ができた。ナイヤガラ滝を見たかった。

新たに16人の工学修士

二期生全員めでたく修了

今回修了する大学院第二期生の内訳は、機械工学専攻四人、電気工学専攻六人、建築学専攻六人、全員で十六人である。これで第一期生と合わせると二十一となる。

修士論文テーマ

機械工学専攻

電気工学専攻

建築学専攻

後援会だより

創立二十周年を目前に、後援会では毎年の通常活動に加えて、多年にわたる事業が増加し、現在二十周年記念事業としての学友会館の建設や、天元山荘集会所建設計画等が鋭意進行中である。

学友会館（仮称）建設については、昨年十月大学、後援会、同窓会三者による合同委員会が発足、本格的に具体的内容等についても種々検討されることになった。

また、同じ記念事業の一環として、

庭に一月未備え付けも完了した。ご厚志に衷心より謝意を表する次第である。

そのほか特別事業として昨年十月に完工したグラウンドの大改修工事の一環として、レインガン方式による散水設備（四百万円）が後援会より大学へ寄贈された。

恒例の地域別会員懇談会については、昨年八月末の秋田県男鹿市での開催に始まり、七年ぶりの札幌や、初開催の北陸・金沢などを始め全国十六の会場（内三会場は本部主催）で全会員を対象に開催され、熱心な支部会員の設営により、盛り上げた懇談に終始した。しかし、一部会場設営や開催時期の関係から、昨年度より出席率がわずかに減少、後援会ではその内容を検討して来期にそなえることになっている。

なお、昭和六十年度の後援会総会は、五月十九日（日）大学で開催されることになっており、四月中に案内の予定であるが、沢山の会員各位のご出席を期待したいものである。

（後援会事務局）

研究室では 24

正道寺研究室

当研究室での研究分野、特に卒業研究で取り扱う研究分野は、統計解析、品質管理、各種最適化問題を解くためのアルゴリズム（アルゴリズムとは、有限回のステップで解を得る手続きのことである）の開発、新しいコンピュータ言語の使い勝手に関する分野などであるが、卒業のテーマは毎年学生と相談の上で決めている。このなかで統計解析や品質管理に関する研究は、実際のデータを取り扱わないと研究価値が著しく損なわれることから、研究所や民間会社とタイアップして研究することもある。

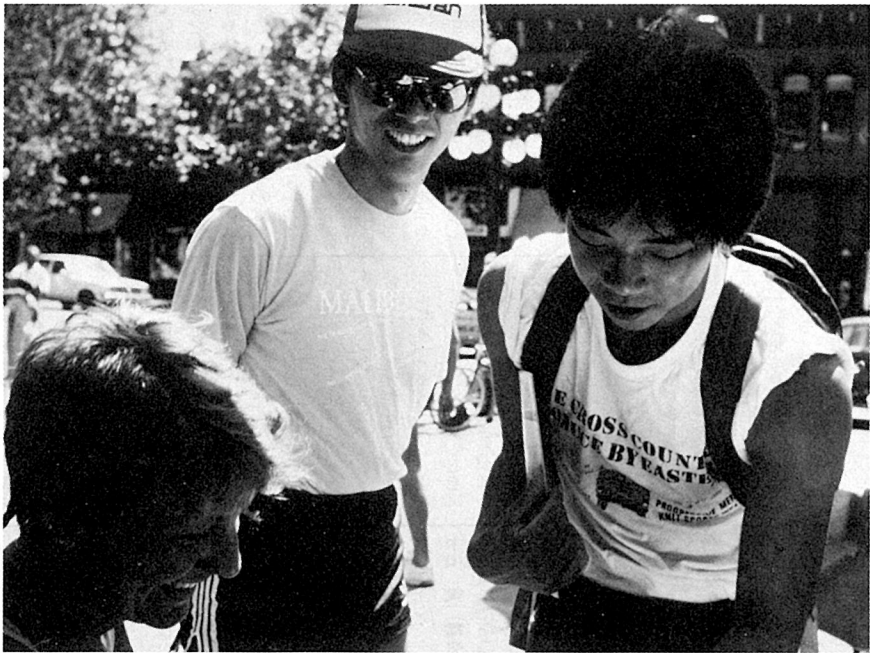
一方、アルゴリズムの開発

やコンピュータ言語（今年度の卒業の中には、米国防総省が威信をかけて開発したプログラミング言語 Ada に関する研究があり、"Programming Embedded Systems with Ada" の訳本を近く出版する予定である）の使い勝手に関する研究は、研究室に設置してあるマイクロ・コンピュータを使って行っており、特にアルゴリズムの開発は、理論的な色彩が強く、筆者の個人的な研究分野でもある。一口にアルゴリズムの開発といっても、それが関連する分野は数多く存在するが、当研究室で行なっている研究は、オペレーティング・システムのなかでも

重要な一分野を占める数値計画法に関する分野である。数値計画法とは、与えられた制約条件の下で目的関数を最大にしたり、もしくは最小にしたりする最適化問題を解くためのアルゴリズムを研究する分野のことである。筆者の所属している学科の名称ともなっているシステム工学そのものが、あるシステムの最適化（システムの最適化とは、システムの効率もしくは機能を最大にするということであると考えられる）であるには、どのようにしたらよいのかを研究する学問であるといっても過言ではない。一般に、システム工学に限らず、工学と名のつく分野で最適化を行なっていく分野を探し出す方が難しいくらいである。最適化問題は、古くは解析学における極値探索問題として知られていた分野であるが、

解析的に解けない問題（例えば、非線形問題や組み合わせ問題などに多い）に対しては、アルゴリズムを利用して近似解を求める以外に、今のところ手はないのである。しかしながら、それが取り扱う問題の多様性と複雑さに加え、解を求める過程で膨大な計算量が要求されるため、今日のよう大型計算機を自由に使える以前には、そのニーズの大きさに拘らず、アルゴリズムの研究はあまり行なわれてはいなかった。周知のとおり、最近のコンピュータの進歩は目を驚かすものがあり、その進歩と相まって最適化問題を解くためのアルゴリズムの研究は、世界中で行なわれており、ここ数十年の間に長足の進歩を遂げた。現在までのところ、多峰性関数の最適化問題に適用できる、切札的

（システム工学科講師）



第2回 日本工業大学 カナダ短期留学（語学研修）

期 間	60年8月4日～8月29日＜26日間＞
費 用	550,000円（30人の場合）
研 修 先	ブリティッシュ・コロンビア大学（UBC）の語学研修所（カナダ・バンクーバー市）
プログラム	月～金曜日 午前中3時間教室で授業、午後は自由な課外活動。週末には小旅行がある。
カリキュラム	①聞いて理解する力②単語と熟語③英会話④バンクーバー市内での英語の実践的な活用
宿 舎	ホームステイ（バンクーバー市在住のカナダ人の家庭に滞在し、その家族の一員として生活する。）
そ の 他	UBCでの語学研修終了後、アメリカのサンフランシスコとロスアンゼルスへ渡り、研修成果を実践する。オプション・ツアーもある。
窓 口	教務課

募集

ヨーロッパ研修旅行

カナダ短期留学



第13回 日本工業大学 ヨーロッパ研修旅行

期 間	60年8月21日～9月11日	＜22日間＞
費 用	585,000円	
行 き 先	アテネ→ローマ→フィレンツェ→ベニス→ミラノ→インターレーケン→チューリッヒ→ローデンプルグ→ハイデルベルグ→ケルン→パリ→バルセロナ→マドリッド→ロンドン	
窓 口	学生課	